

薬物乱用防止啓発活動における浸透度調査 アンケート調査分析報告書

平成24年3月
厚生労働省

・調査目的

厚生労働省では、薬物乱用防止に係る啓発活動の一環として、子供の成長段階に応じた啓発資材(冊子)の作成・配布を行ってきた(対象:小学校6年生保護者・高等学校3年生生徒)。各小学校、高等学校に配布した啓発資材の活用状況や、活用事の生徒・保護者の反応などを調査・分析し、資材の改善や今後のより効果的な啓発活動実施の為に、有益な情報を把握することを目的とした。

・調査対象

全国の小学校および高等学校の全日制課程
(東日本大震災被災3県内の学校を除く。特別支援学校の小学部および高等部を含む。)

・調査手法

郵便発送で郵便またはWeb返信のアンケート

・調査期間

平成24年1月23日～平成24年2月10日

・発送・回答数(小学校)

地方名	有効発送数	有効回答数	有効回答率
北海道	1,195	492	41.2%
東北(被災3県を除く)	896	394	44.0%
関東	5,356	2,207	41.2%
北陸・甲信越	1,774	778	43.9%
東海	2,309	1,147	49.7%
近畿	3,024	1,049	34.7%
中国・四国	2,560	1,230	48.0%
九州・沖縄	3,200	1,447	45.2%
合計	20,314	8,744	43.0%

・発送・回答数(高等学校)

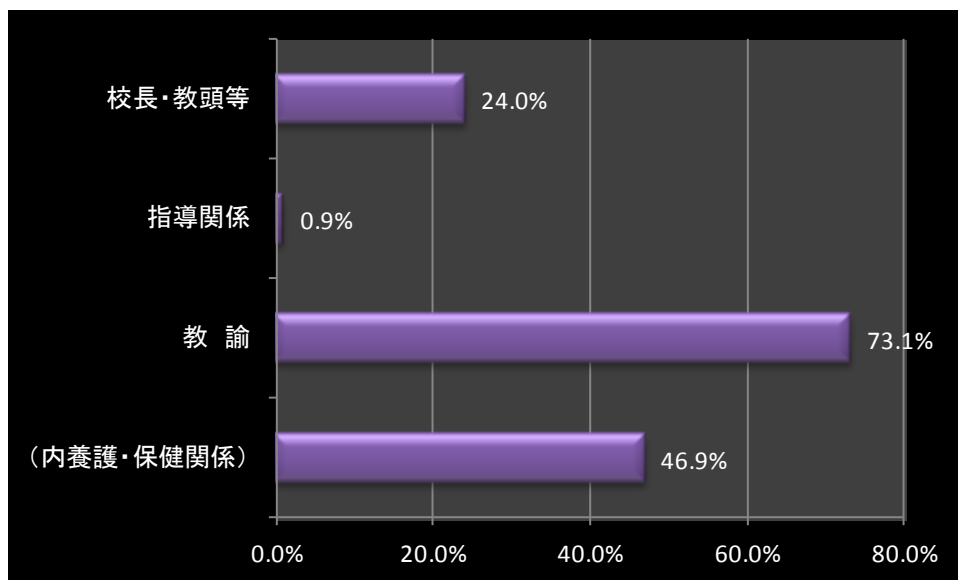
地方名	有効発送数	有効回答数	有効回答率
北海道	297	142	47.8%
東北(被災3県を除く)	230	120	52.2%
関東	1,446	594	41.1%
北陸・甲信越	459	215	46.8%
東海	607	319	52.6%
近畿	823	345	41.9%
中国・四国	680	352	51.8%
九州・沖縄	769	341	44.3%
合計	5,311	2,428	45.7%

小学校に対する調査結果

【調査対象となる啓発資材(表紙: 小学校6年生保護者用)】



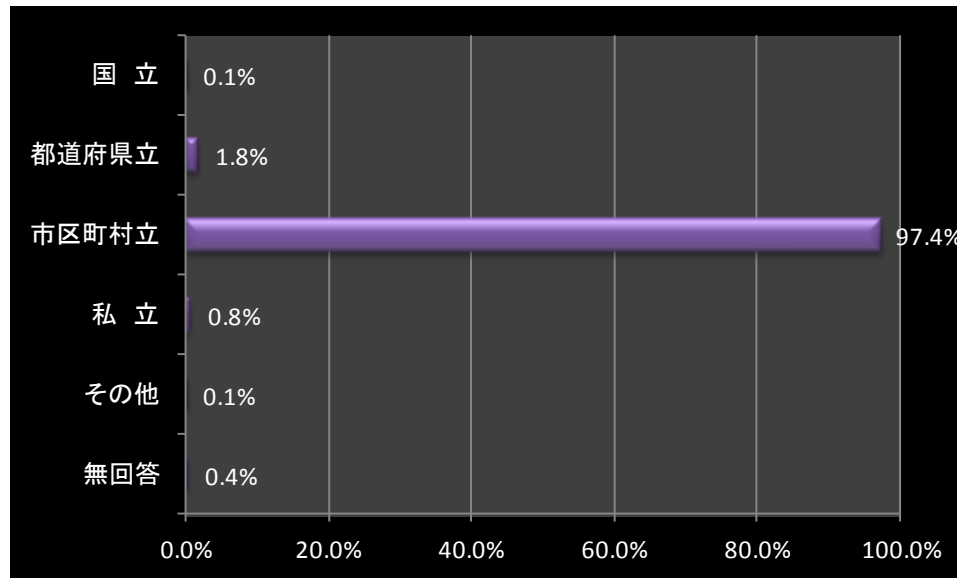
F1. あなたの職名を記入願います。



回答記述に含まれる文字より、回答者は、養護教諭や保健主事などが約半数を占め、その他の一般教諭と校長・教頭などがそれぞれ約1/4で構成されると推断された。

F4. 学校の種別で最も当てはまるものをお知らせください。(〇は1つ)

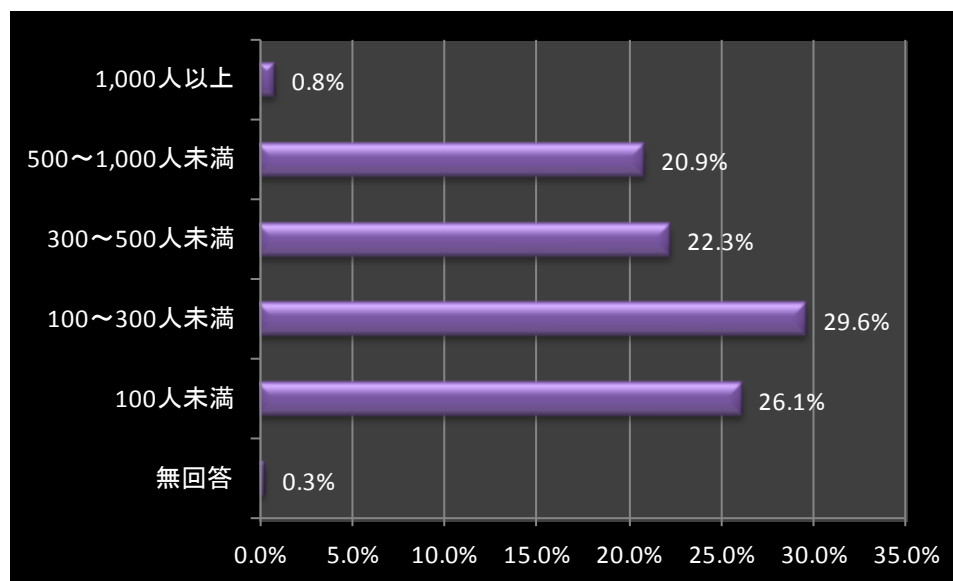
1. 国立 2. 都道府県立 3. 市区町村立 4. 私立 5. その他



ほとんど全てが“市区町村立”であった。

F5. 学校の規模(全校児童数)で最も当てはまるものをお知らせください。(○は1つ)

1. ~100人未満 2. 100~300人未満 3. 300~500人未満 4. 500~1,000人未満 5. 1,000人以上~

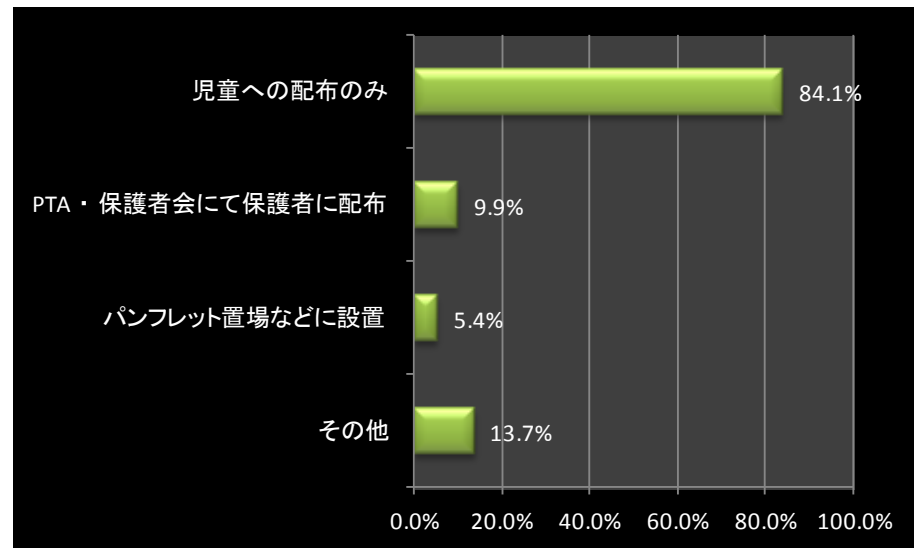
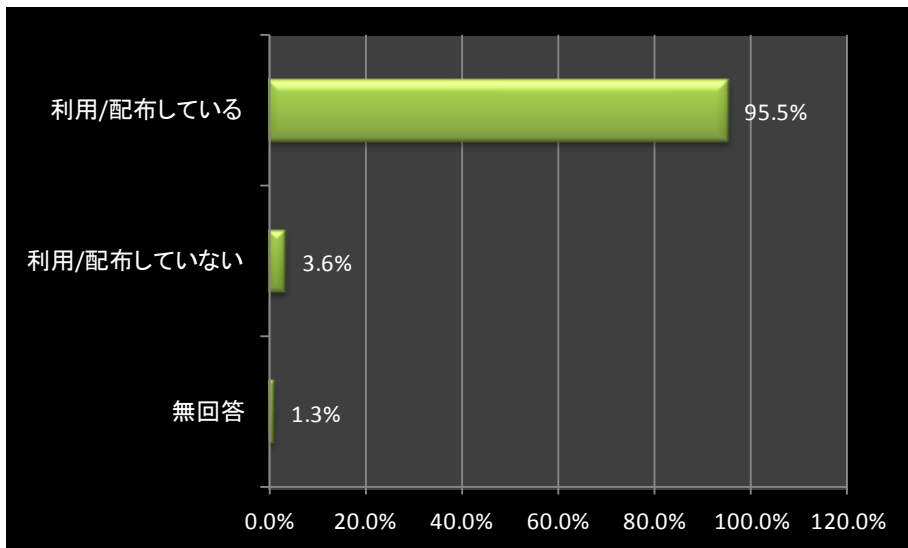


“1,000人以上”の規模は希であり、それより小さい4つの規模区分がそれぞれ20%代でほぼ横並びとなった。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

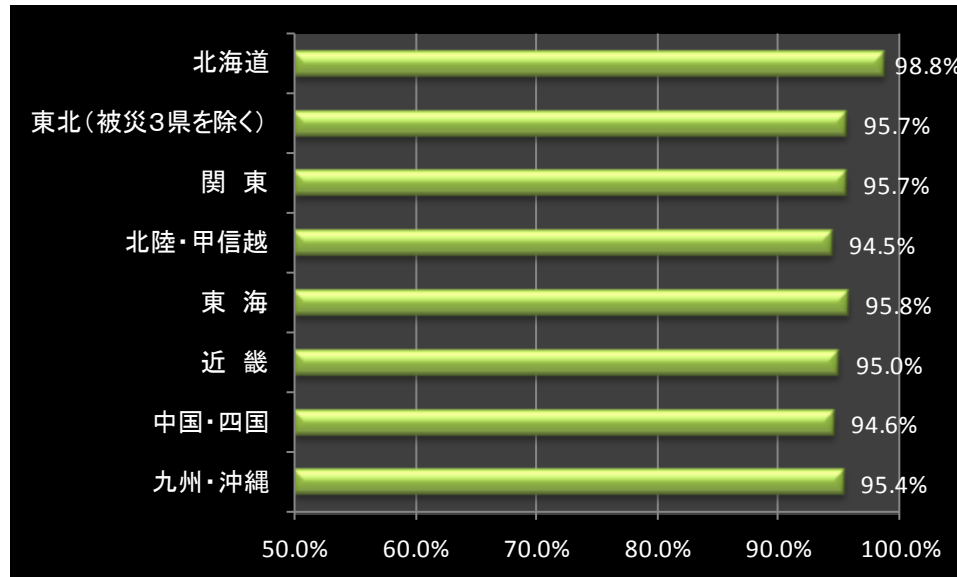
Q1. 啓発資材はどのように利用していますか？(○はいくつでも)

- 1. 児童への配布のみ
- 2. PTA・保護者会にて保護者に配布
- 3. パンフレット置場などに設置
- 4. その他 (具体的に:)
- 5. 利用/配布していない



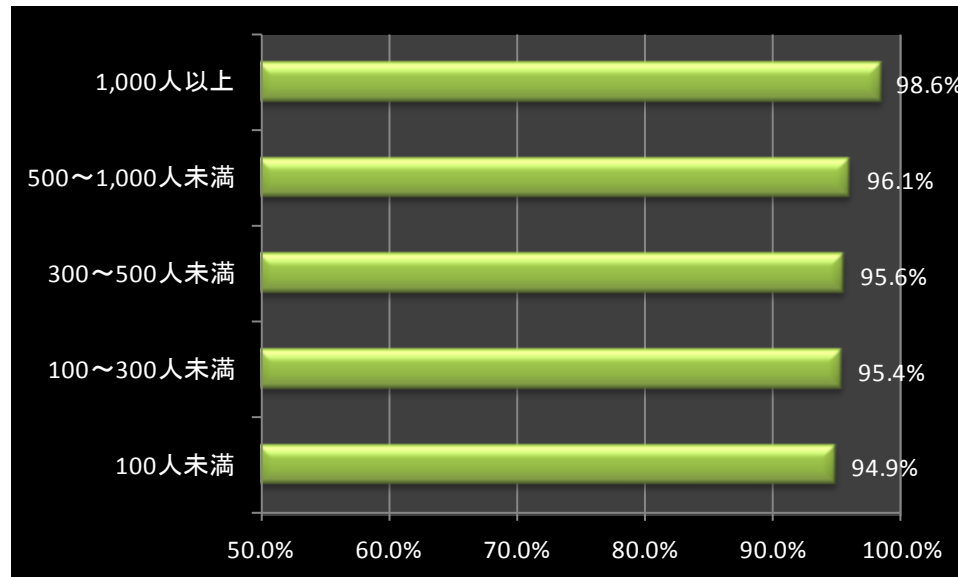
左図は、Q1中の選択肢1～4に少なくとも1つ○を付けたものを”利用/配布している”として集計したものである。95%以上の小学校で利用/配布されていることが解る。右図は、その”利用/配布している”8,350校において各選択肢1～4に○が付された率を示したものである。”児童への配布のみ”が他の選択肢に比して圧倒的に多いことが解る。

学校所在地別での資材の利用/配布状況



各地方の小学校での対象資材の利用/配布の率を示している。各地方において、全国平均(95.5%)を1~3%程度前後するのみで大差は見られない。

学校規模別での資材の利用/配布状況



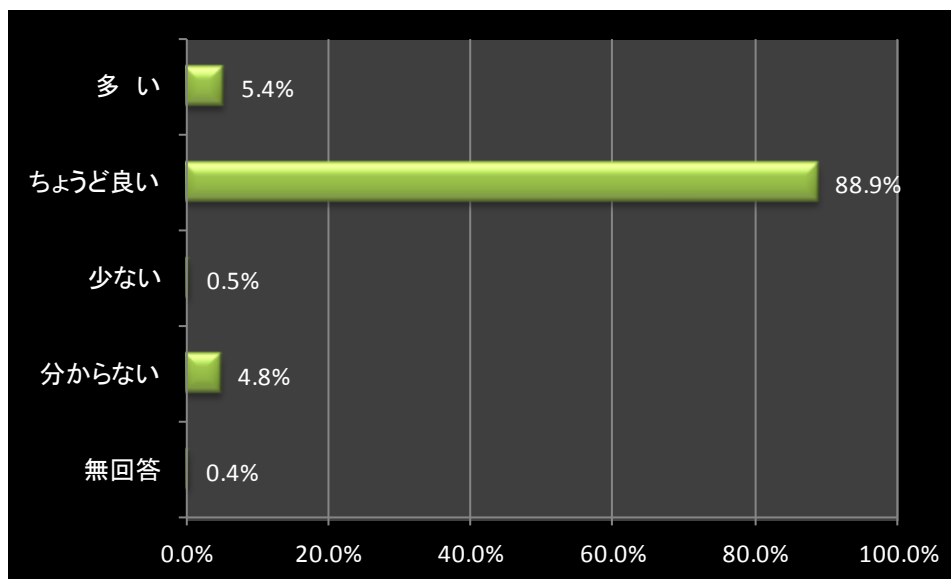
小学校の規模別での対象資材の利用/配布の率を示している。規模が大きくなるほど利用/配布の率が大きくなる傾向が見られないではないが、小差である。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

- ① ページ数は妥当か 1. 多い 2. ちょうど良い 3. 少ない 4. 分からない



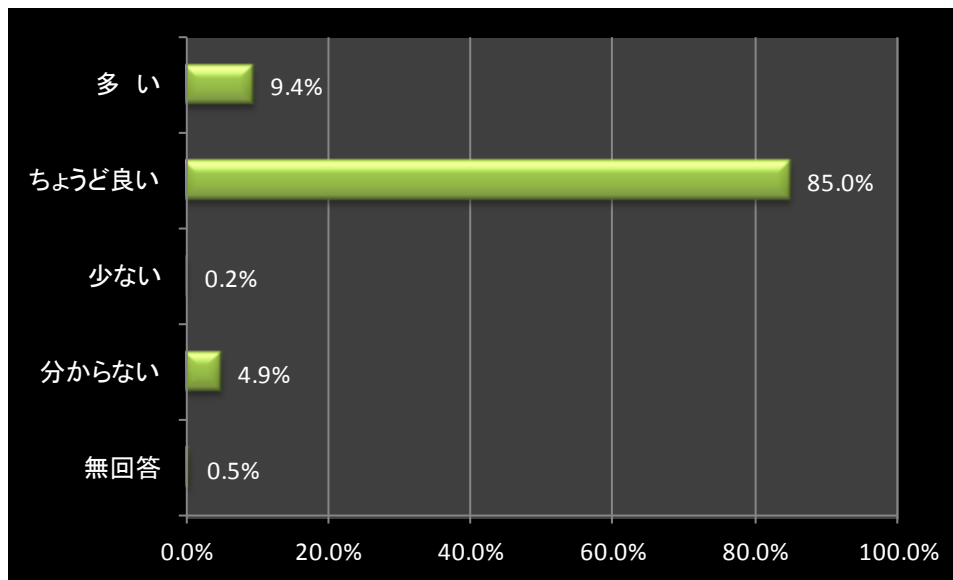
Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した8,350校のQ2-①への回答分布を示している。9割近くが”ちょうど良い”を選択している。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

② 文字数は適当か 1. 多い 2. ちょうど良い 3. 少ない 4. 分からない



Q1で対象資材を「利用/配布している」と回答した8,350校のQ2-②への回答分布を示している。1割近くが「多い」を選択しているが、85%が「ちょうど良い」と回答している。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

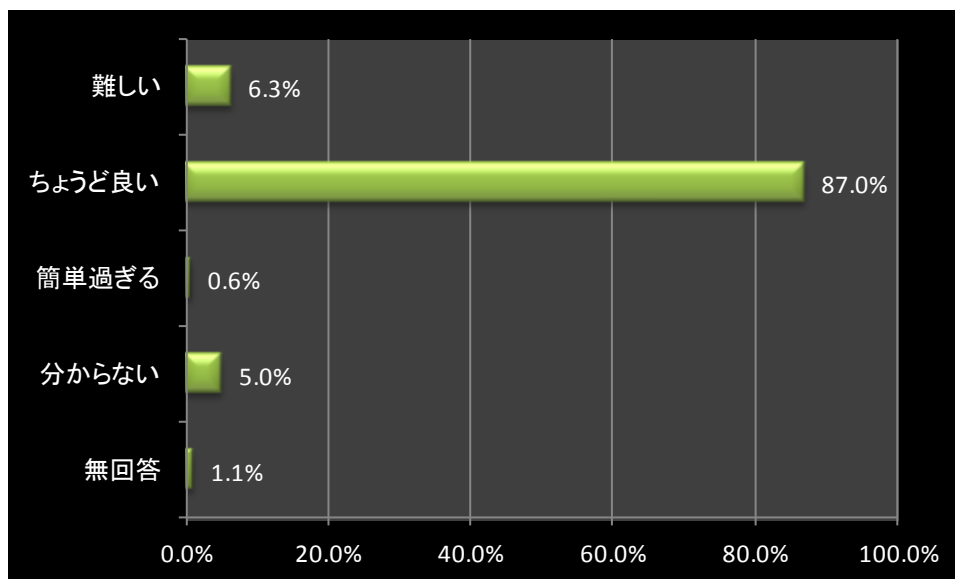
③ 内容は適当か

1. 難しい

2. ちょうど良い

3. 簡単過ぎる

4. 分からない



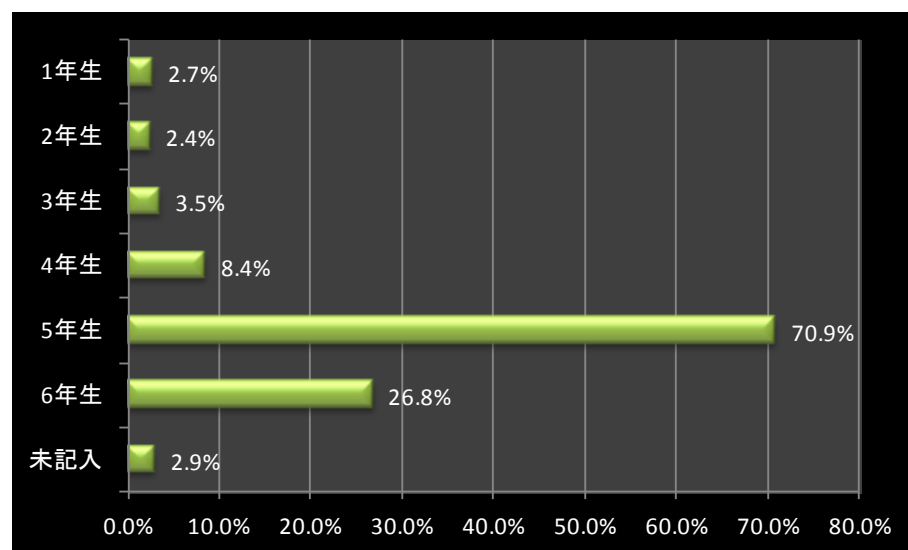
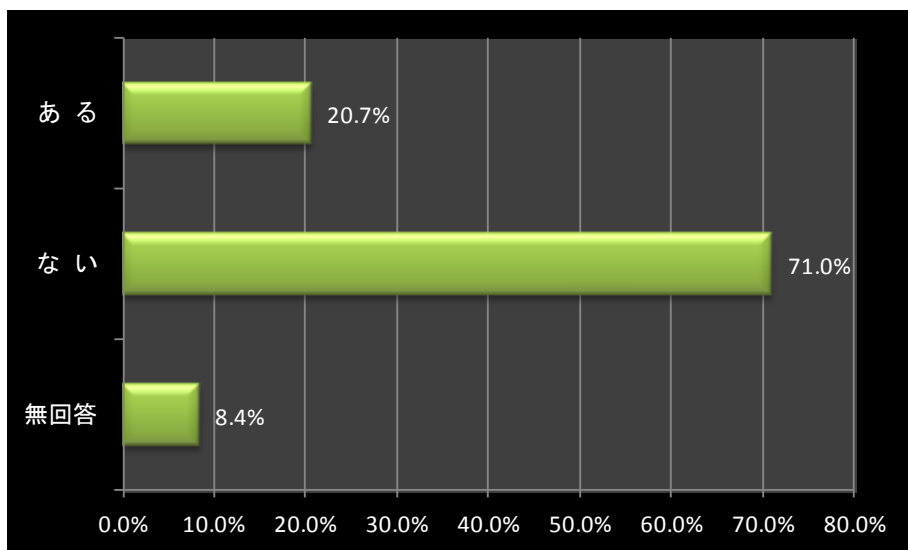
Q1で対象資材を“利用/配布している”と回答した8,350校のQ2-③への回答分布を示している。9割近くが“ちょうど良い”を選択している。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

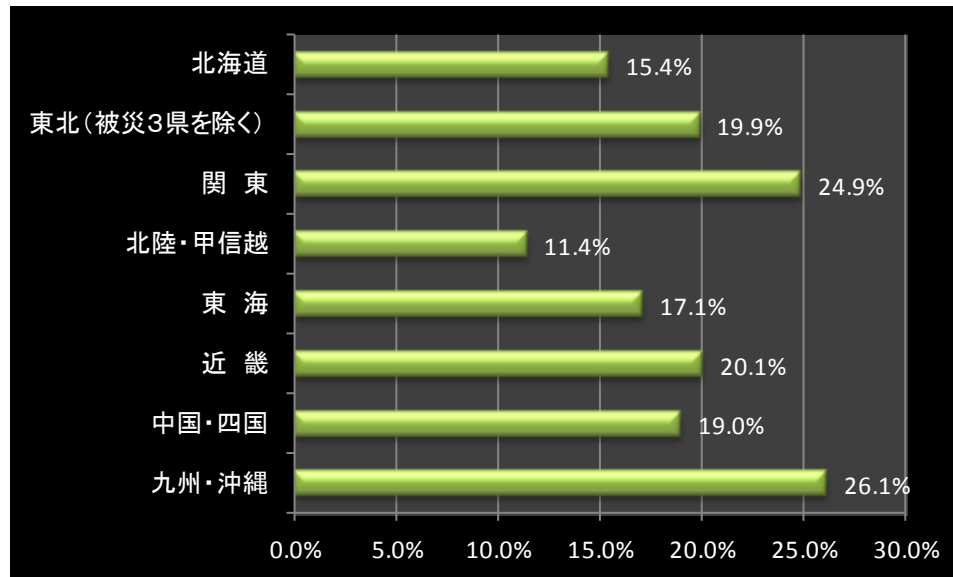
※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

④ 他に啓発すべき学年は 1. ある ()年生 2. ない



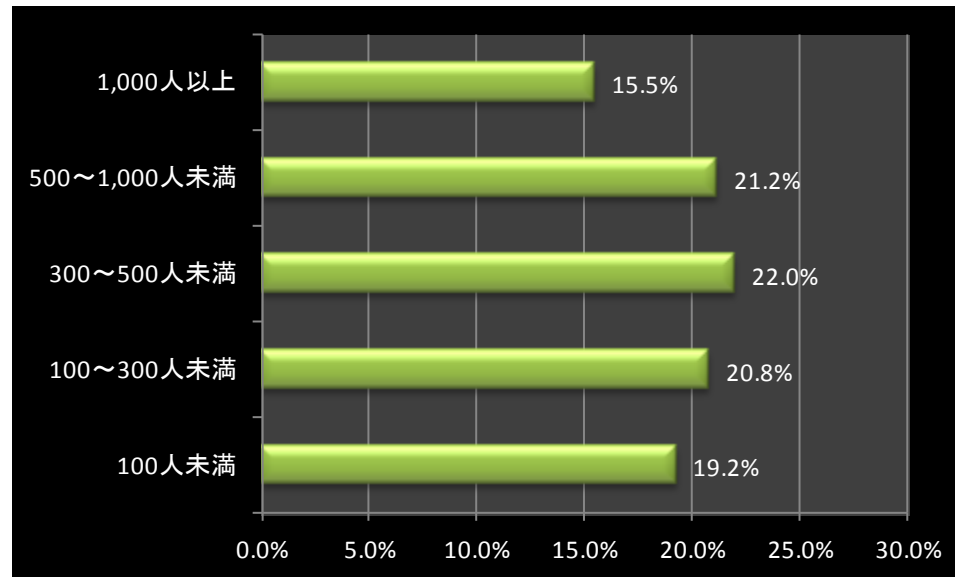
左図は、Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した8,350校のQ2-④の選択肢への回答分布を示している。約2割が”ある”と回答している。右図は、左図で”ある”を選択した1,729校の括弧内学年記述における各学年の記述率を示している。”5年生”は、記述に含められた率が約7割と他学年に比して圧倒的に多いことが解る。

学校所在地方別の他学年啓発志向状況



対象資材を”利用/配布している”各地方の小学校において、Q4-④で他に啓発すべき学年が”ある”と回答した率を示している。全国平均(20.7%)に比較して、北海道と北陸・甲信越では5%以上小さく、関東と九州・沖縄では4~5%以上大きいことが解る。

学校規模別での他学年啓発志向状況



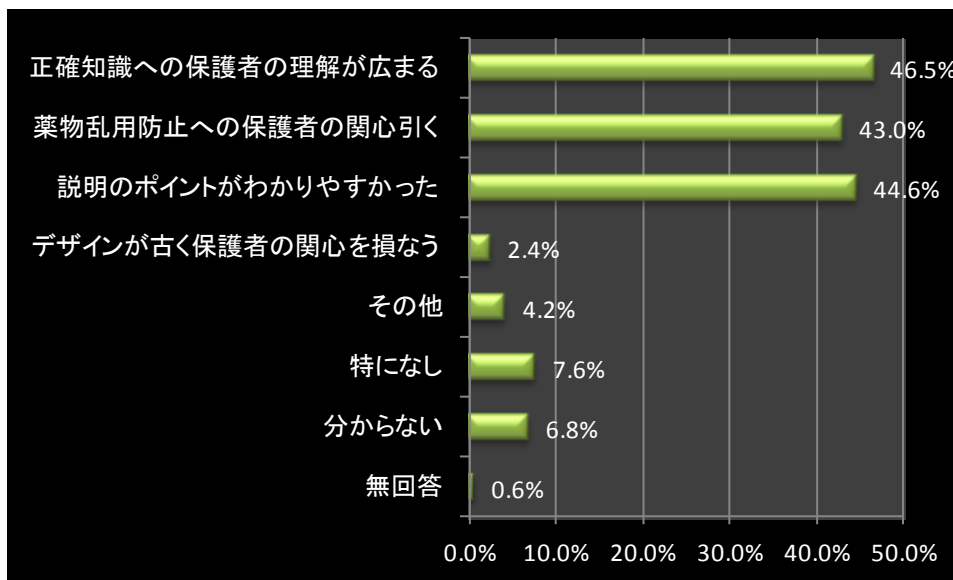
対象資材を”利用/配布している”各規模の小学校において、Q4-④で他に啓発すべき学年が”ある”と回答した率を示している。全規模平均(20.7%)に比較して、全校児童数が”1,000人以上”の規模では5%以上小さくなっているが、他の規模では2%差以内となっている。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

Q3. 資材を利用・配布して感じたことがあればお知らせください。(〇はいくつでも)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

- 1. 薬物乱用防止の正確な知識について保護者の理解が広まる
- 2. 薬物乱用防止について保護者の関心を引く
- 3. 児童や保護者への説明のポイントがわかりやすかった
- 4. 内容は問題ないがデザインが古く、保護者の関心が得られない
- 5. その他 (具体的に:)
- 6. 特になし
- 7. 分からない

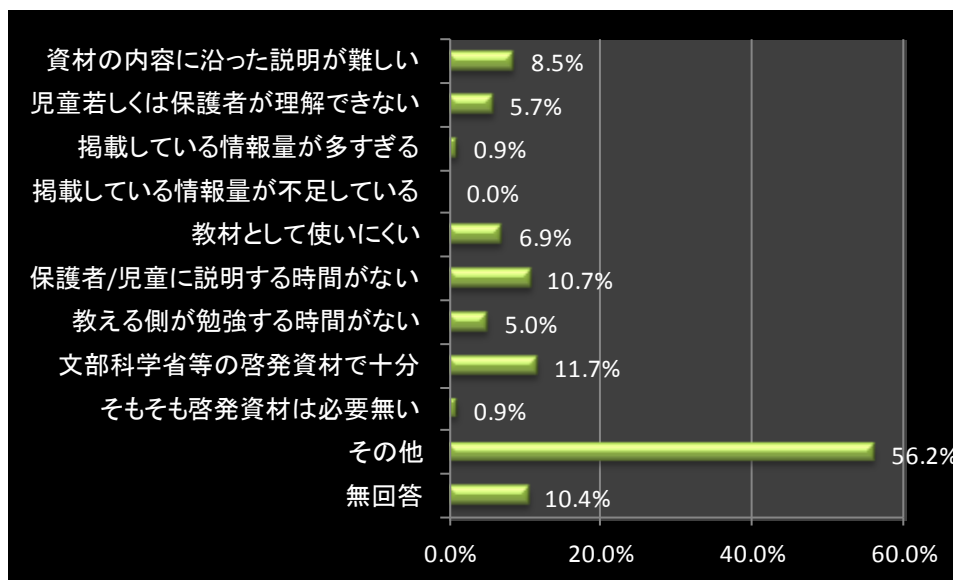


Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した8,350校において、Q3の各選択肢1～7に〇が付された率を示している。対象資材における知識、魅力、説明面に対する肯定的な感想は、いずれも、利用/配布している小学校の約4～5割で選択されている。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

Q4. 資材を利用・配布しなかった理由をお知らせください。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 資材の内容に沿った説明が難しい | 6. 薬物乱用防止について保護者若しくは児童に説明をする時間がない |
| 2. 内容が難しく、児童若しくは保護者が理解できない | 7. 薬物乱用防止について教える側が勉強する時間がない |
| 3. 掲載している情報量が多すぎる | 8. 文部科学省等の啓発資材で十分 |
| 4. 掲載している情報量が不足している | 9. そもそも啓発資材は必要無い |
| 5. 教材として使いにくい | 10. その他 (具体的に: _____) |

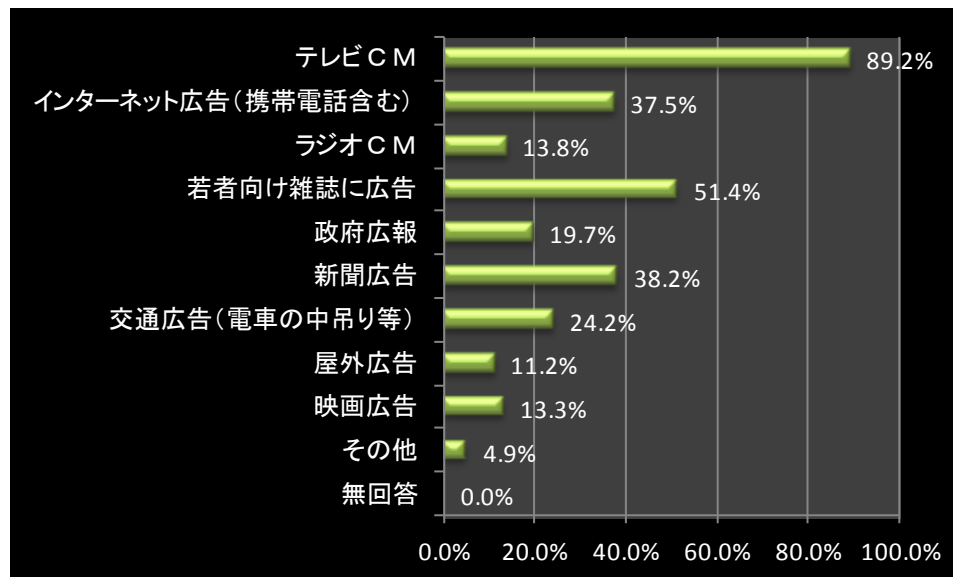


Q1で対象資材を”利用/配布していない”と回答した317校において、Q4の各選択肢1～10に〇が付された率を示している。対象資材を利用/配布しなかった理由として約1割を大きく越えて〇が付された選択肢は”その他”以外にはないことが解る。“その他”に対応する自由記述理由の約4割は資材の配布・管理上の問題であり、約3割は他の啓発活動との競合である。

1. 厚生労働省の啓発資材(薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」子どもたちを薬物乱用から守るために)についてお伺いいたします

Q5. 薬物乱用防止に向けて、児童とその保護者の理解をより深めるためにどのような広報が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. テレビCM | 6. 新聞広告 |
| 2. インターネット広告(携帯電話含む) | 7. 交通広告(電車の中吊り等) |
| 3. ラジオCM | 8. 屋外広告 |
| 4. 若者向け雑誌に広告 | 9. 映画広告 |
| 5. 政府広報 | 10. その他(具体的に:) |



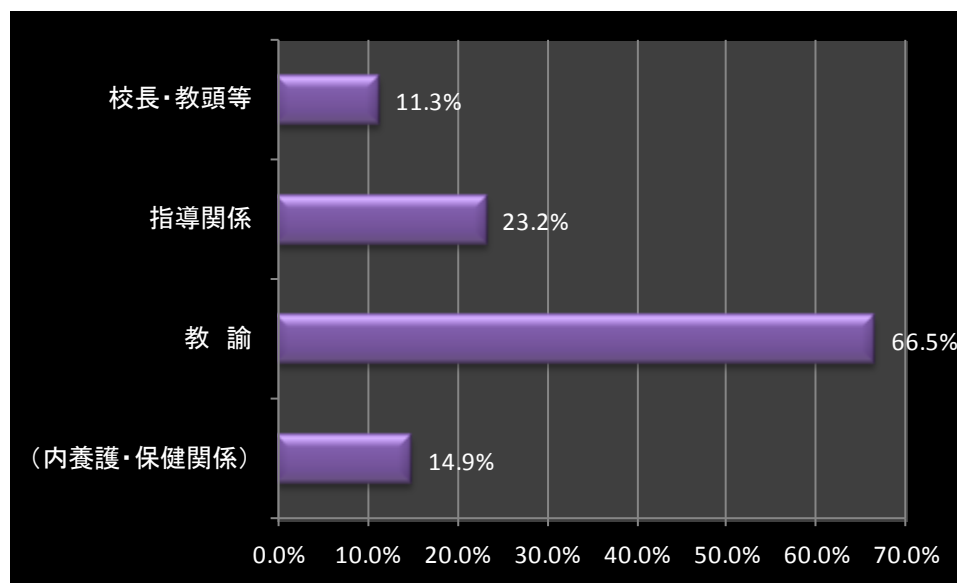
Q5の各選択肢1~10に〇を付けた小学校の率を示したものである。最多は「テレビCM」(89.2%)であり、「若者向け雑誌に広告」(51.4%)、新聞広告(38.2%)、「インターネット広告(携帯電話含む)」(37.5%)が後に続いた。

高等学校に対する調査結果

【調査対象となる啓発資材(表紙:高等学校3年生生徒用)】



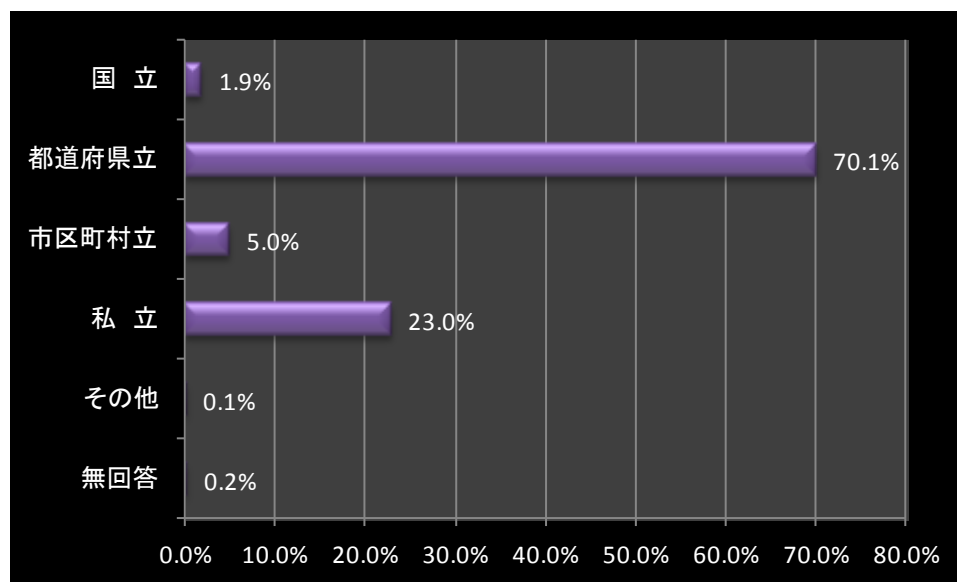
F1. あなたの職名を記入願います。



回答記述に含まれる文字より、回答者は、生徒指導役や生活指導役などが約1/4、校長・教頭などと擁護教諭・保健主事などが合わせて約1/4、その他の一般教諭が約1/2で構成されると推断された。

F4. 学校の種別で最も当てはまるものをお知らせください。(〇は1つ)

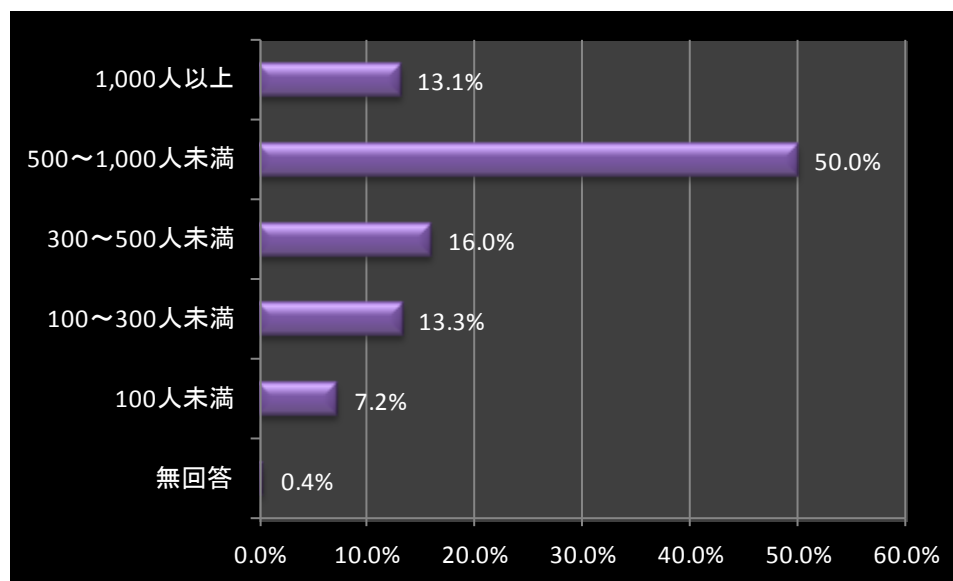
1. 国立 2. 都道府県立 3. 市区町村立 4. 私立 5. その他



“都道府県立”と“私立”で90%以上が占められた。

F5. 学校の規模(全校生徒数)で最も当てはまるものをお知らせください。(○は1つ)

1. ~100人未満 2. 100~300人未満 3. 300~500人未満 4. 500~1,000人未満 5. 1,000人以上~

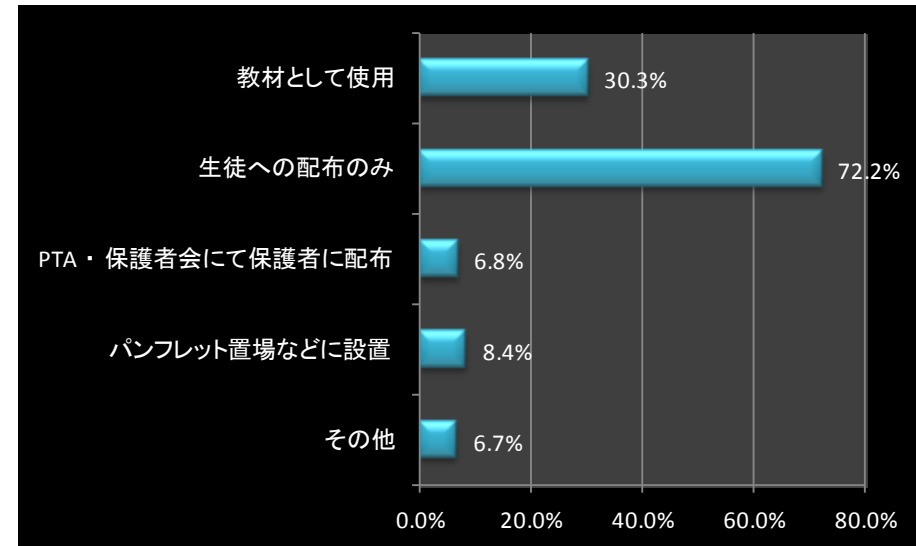
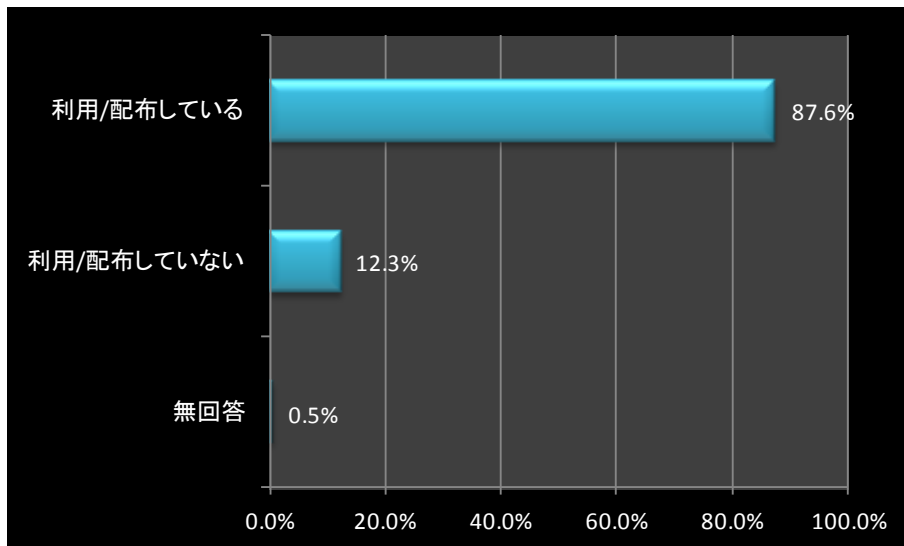


“500~1,000人未満”の規模が50%であり、“100人未満”の規模が10%以下であった。他の3つの規模区分はそれぞれ10%代でほぼ横並びとなった。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いいたします

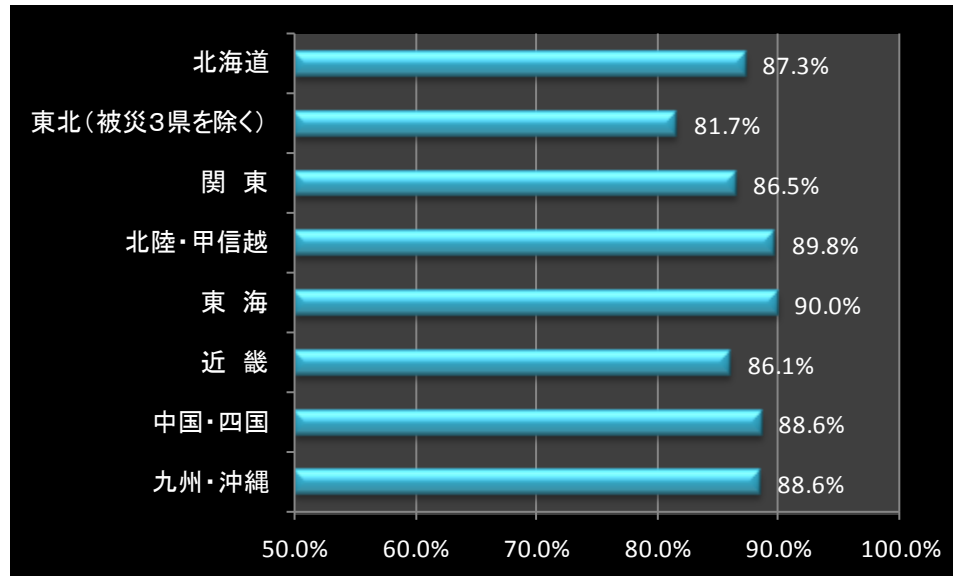
Q1. 啓発資材はどのように利用していますか？(○はいくつでも)

1. 薬物乱用について説明する際の教材として使用
2. 生徒への配布のみ
3. PTA・保護者会にて保護者に配布
4. パンフレット置場などに設置
5. その他 (具体的に:)
6. 利用/配布していない



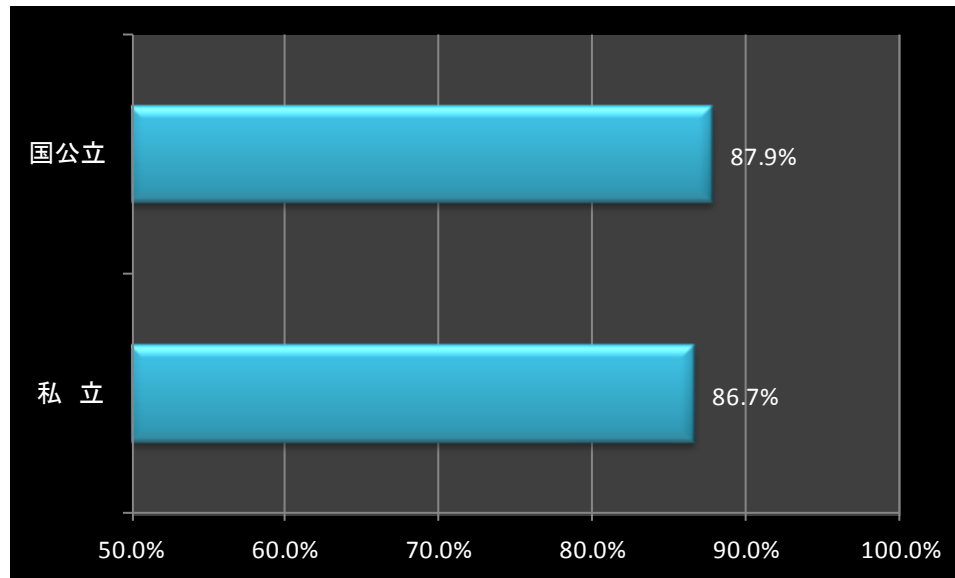
左図は、Q1中の選択肢1～5に少なくとも1つ○を付けたものを”利用/配布している”として集計したものである。85%以上の高等学校で利用/配布されていることが解る。右図は、その”利用/配布している”2,127校において各選択肢1～5に○が付された率を示したものである。”生徒への配布のみ”が他の選択肢に比して圧倒的に多く、”教材として利用”は約3割においてのみとなることが解る。

学校所在地別での資料の利用/配布状況



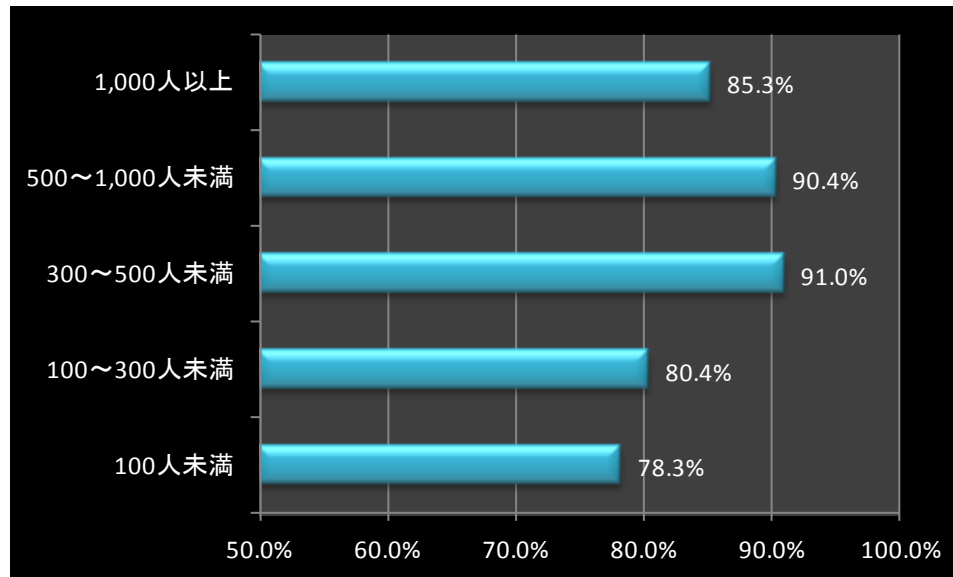
各地方の高等学校での対象資料の利用/配布の率を示している。全国平均(87.6%)に比較して、“東北(被災3県を除く)”では5%以上小さくなっているが、他の地方では2・3%差内にとどまった。

学校種別でみた資料の利用/配布状況



高等学校の種別毎での対象資料の利用/配布の率を示している。“国公立”と“私立”とでは小差となっていることが解る。

学校規模別での資材の利用/配布状況



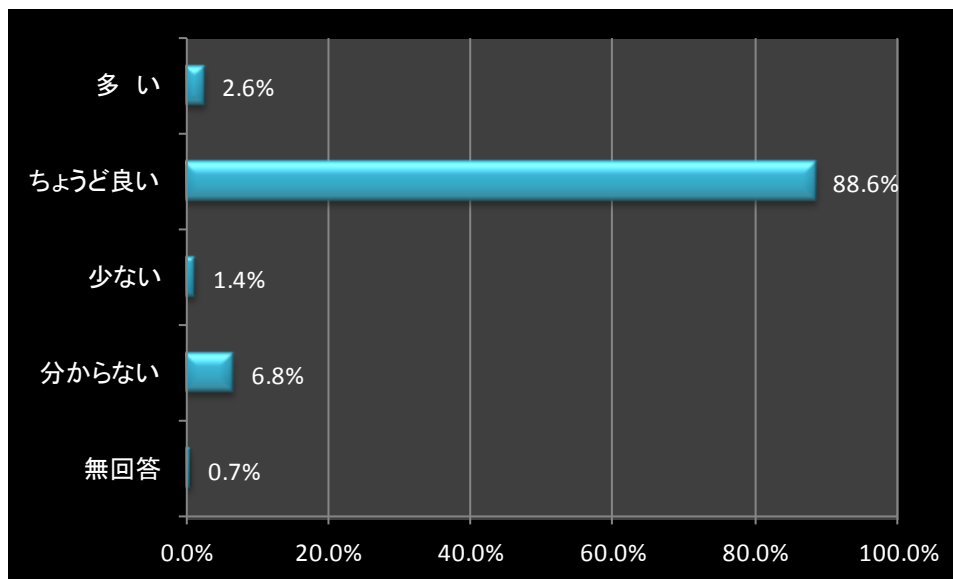
高等学校の規模別での対象資材の利用/配布の率を示している。全規模平均(87.6%)に比較して、全校生徒数が“100人未満”および“100~300人未満”の規模においては5%以上小さくなっている。他の規模区分においては全規模平均からの差は2・3%程度である。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いいたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

- ① ページ数は妥当か 1. 多い 2. ちょうど良い 3. 少ない 4. 分からない



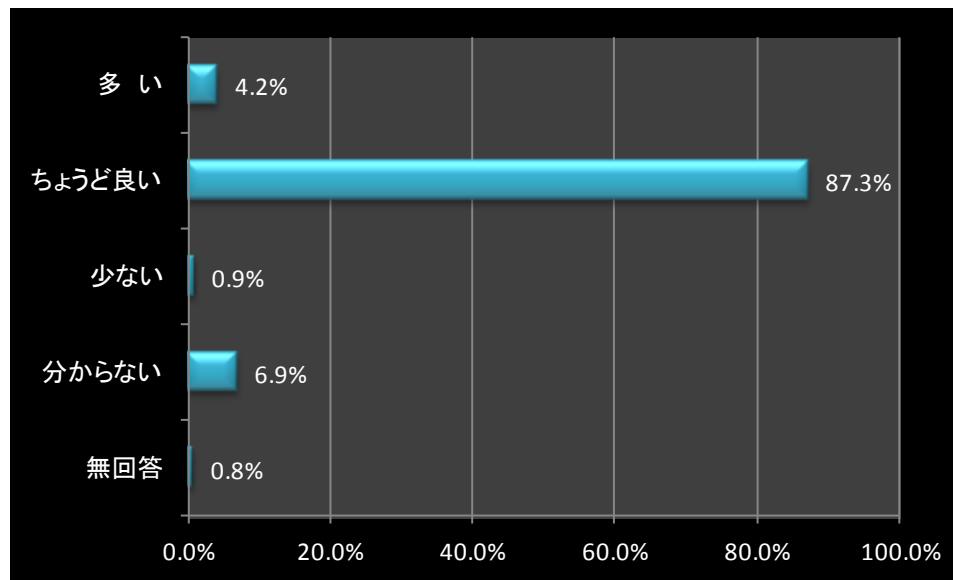
Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した2,127校のQ2-①への回答分布を示している。9割近くが”ちょうど良い”を選択している。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いいたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

② 文字数は適当か 1. 多い 2. ちょうど良い 3. 少ない 4. 分からない



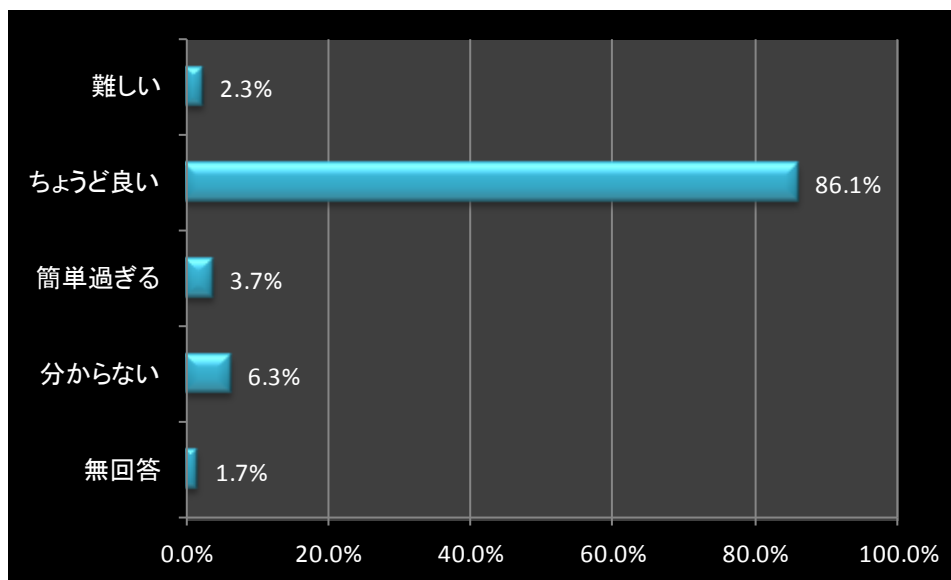
Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した2,127校のQ2-②への回答分布を示している。85%強が”ちょうど良い”と回答している。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いいたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

③ 内容は適当か 1. 難しい 2. ちょうど良い 3. 簡単過ぎる 4. 分からない



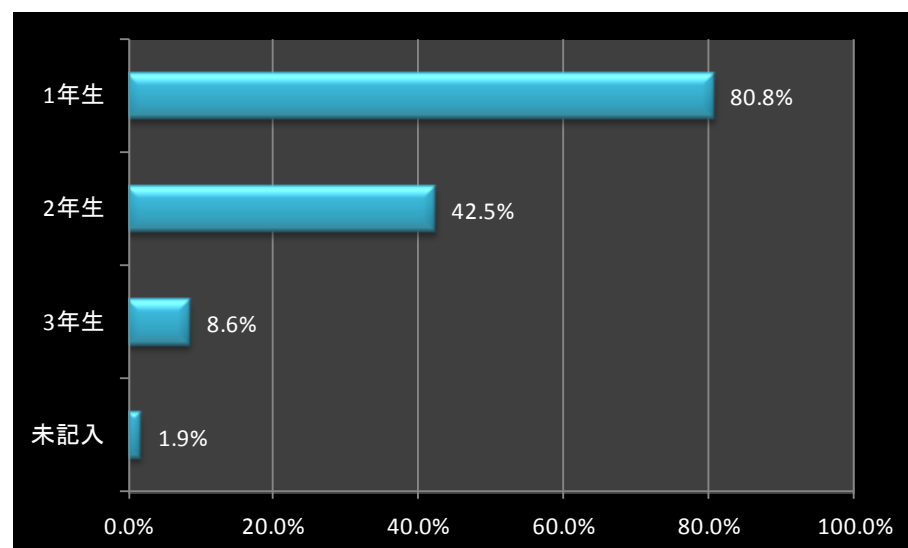
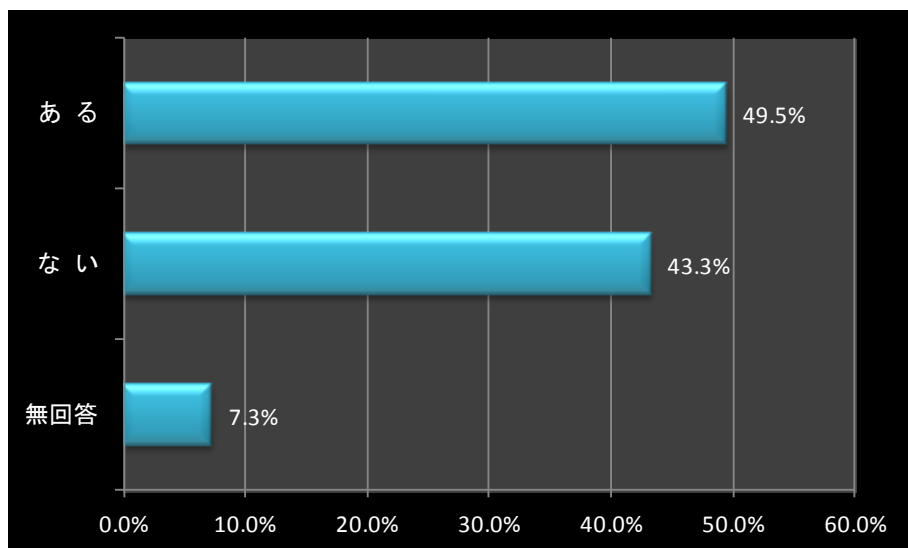
Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した2,127校のQ2-③への回答分布を示している。85%強が”ちょうど良い”を選択している。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いたします

Q2. 啓発資材について以下の①～④についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

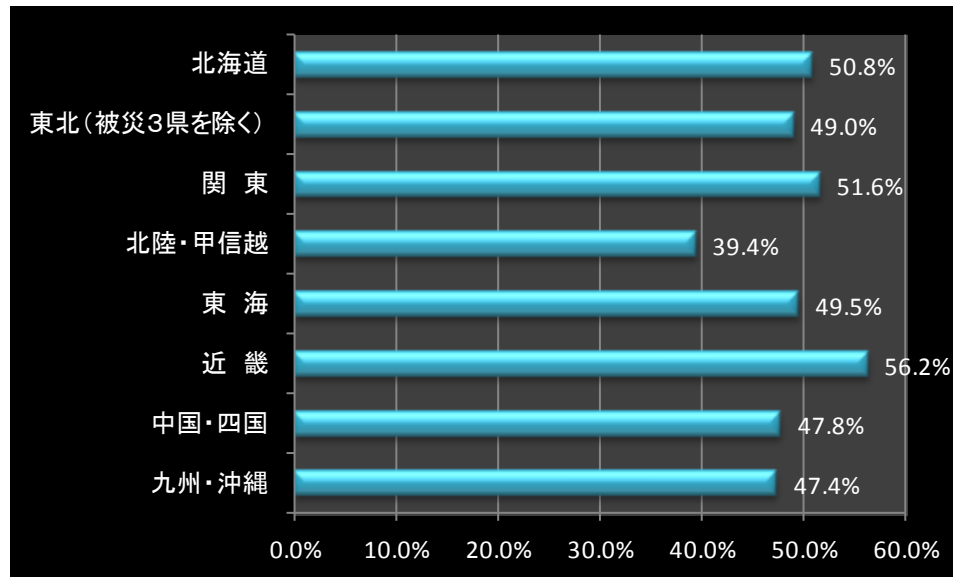
※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

④ 他に啓発すべき学年は 1. ある ()年生 2. ない



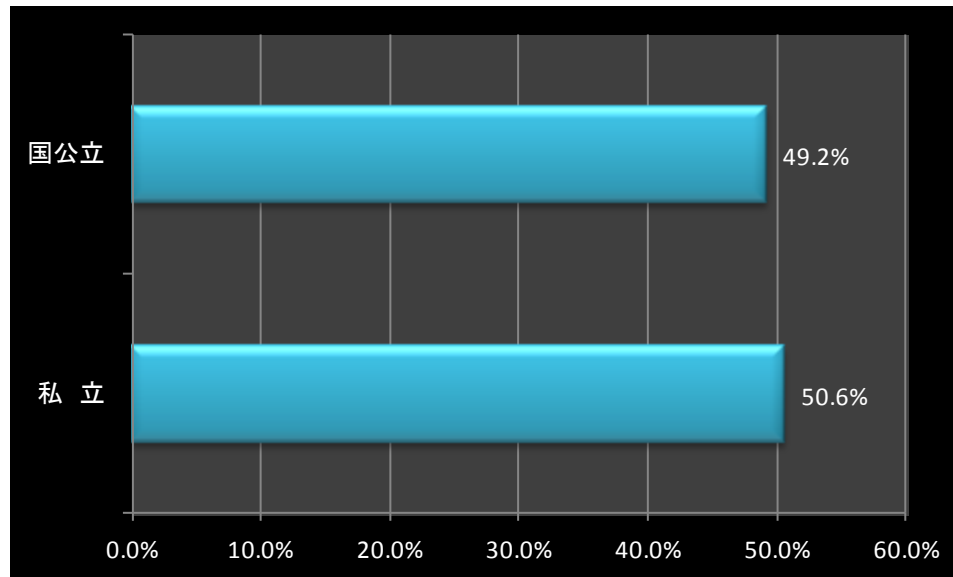
左図は、Q1で対象資材を“利用/配布している”と回答した2,127校のQ2-④の選択肢への回答分布を示している。約5割が“ある”と回答している。右図は、左図で“ある”を選択した1,053校の括弧内学年記述における各学年の記述率を示している。“2年生”は記述に含められた率が約4割であったのに対し、“1年生”はその2倍の約8割であったことが解る。

学校所在地別での他学年啓発志向状況



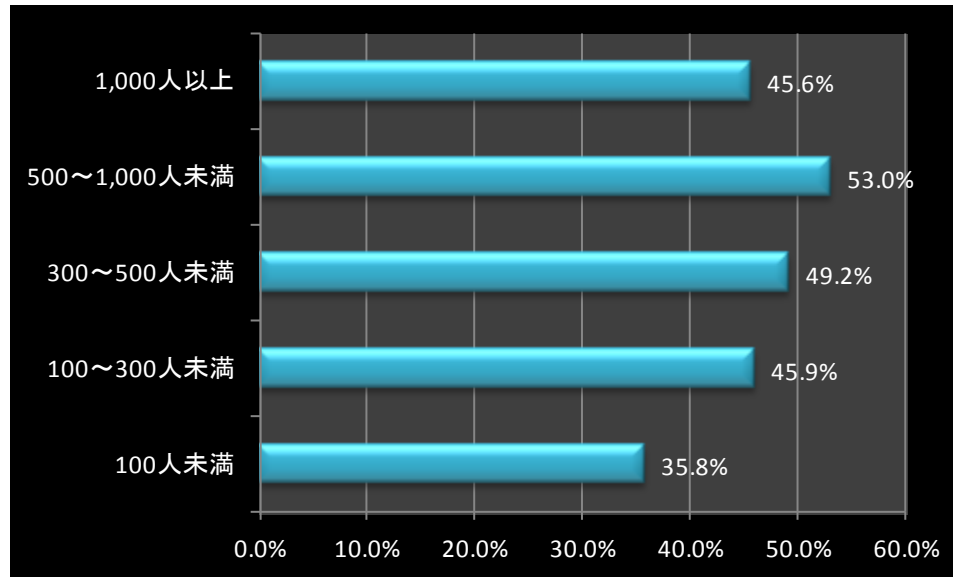
対象資材を”利用/配布している”各地方の高等学校において、Q4-④で他に啓発すべき学年が”ある”と回答した率を示している。全国平均(49.5%)に比較して、北陸・甲信越では10%以上小さく、近畿では5%以上大きいことが解る。他の地方では全国平均から約2%以内の差となっている。

学校種別でみた他学年啓発志向状況



対象資材を”利用/配布している”各種別の高等学校において、Q4-④で他に啓発すべき学年が”ある”と回答した率を示している。“国公立”と”私立”とでは小差となっていることが解る。

学校規模別での他学年啓発志向状況



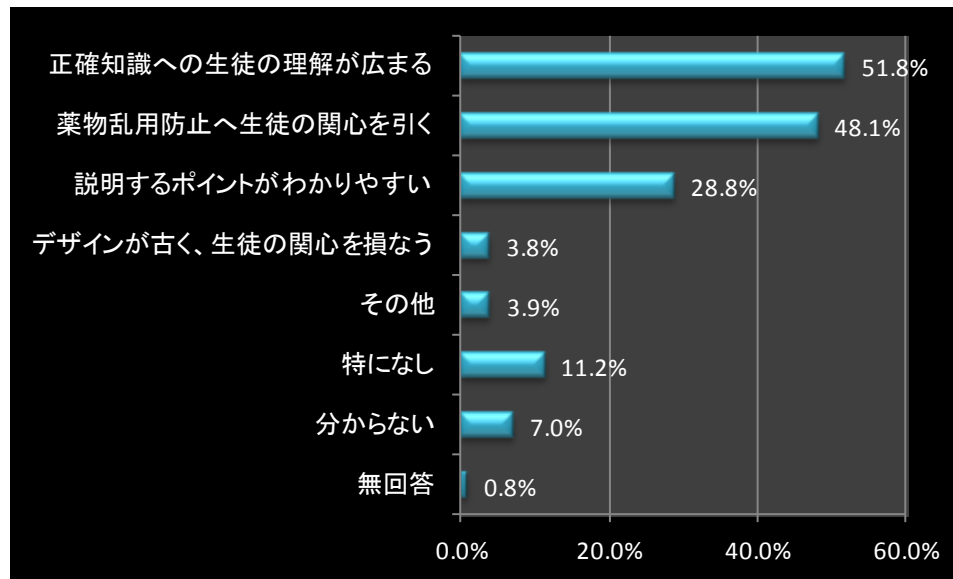
対象資材を”利用/配布している”各規模の高等学校において、Q4-④で他に啓発すべき学年が”ある”と回答した率を示している。全規模平均(49.5%)に比較して、全校生徒数が”100人未満”の規模では10%以上小さくなっているが、他の規模では4%以内の差となっている。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)について伺います

Q3. 資材を利用・配布して感じたことがあればお知らせください。(〇はいくつでも)

※資材を利用していない場合は、「分からない」を選択してください。

- 1. 薬物乱用防止の正確な知識について生徒の理解が広まる
- 2. 薬物乱用防止について生徒の関心を引く
- 3. 説明するポイントがわかりやすい
- 4. 内容は問題ないがデザインが古く、生徒の関心が得られない
- 5. その他 (具体的に:)
- 6. 特になし
- 7. 分からない

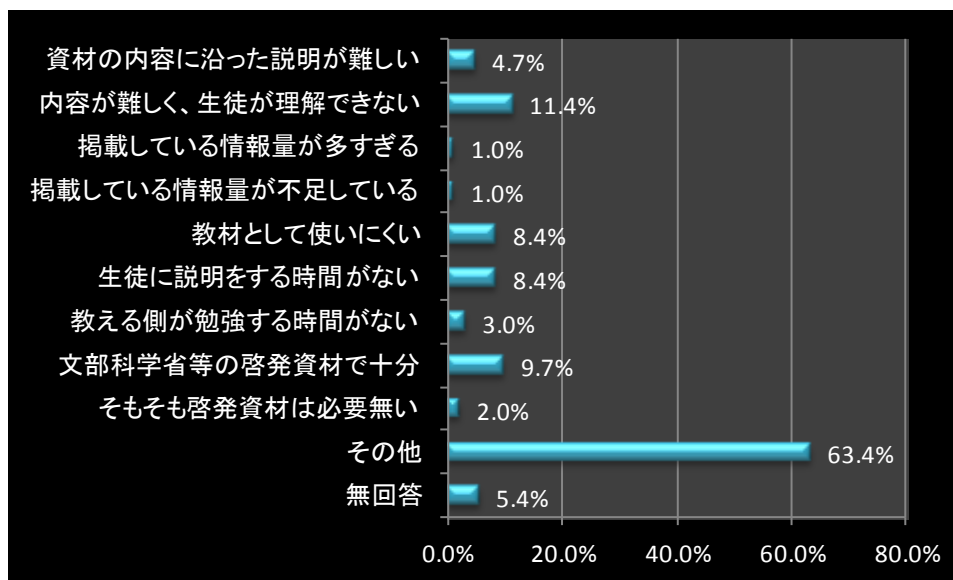


Q1で対象資材を”利用/配布している”と回答した2,127校において、Q3の各選択肢1～7に〇が付された率を示している。対象資材における知識、魅力面に対する肯定的な感想は、いずれも、利用/配布している高等学校の約5割で選択されているが、説明面に対する肯定的な感想の選択は約3割にとどまった。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いたします

Q4. 資材を利用・配布しなかった理由をお知らせください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 資材の内容に沿った説明が難しい | 6. 薬物乱用防止について生徒に説明をする時間がない |
| 2. 内容が難しく、生徒が理解できない | 7. 薬物乱用防止について教える側が勉強する時間がない |
| 3. 掲載している情報量が多すぎる | 8. 文部科学省等の啓発資材で十分 |
| 4. 掲載している情報量が不足している | 9. そもそも啓発資材は必要無い |
| 5. 教材として使いにくい | 10. その他 (具体的に: _____) |

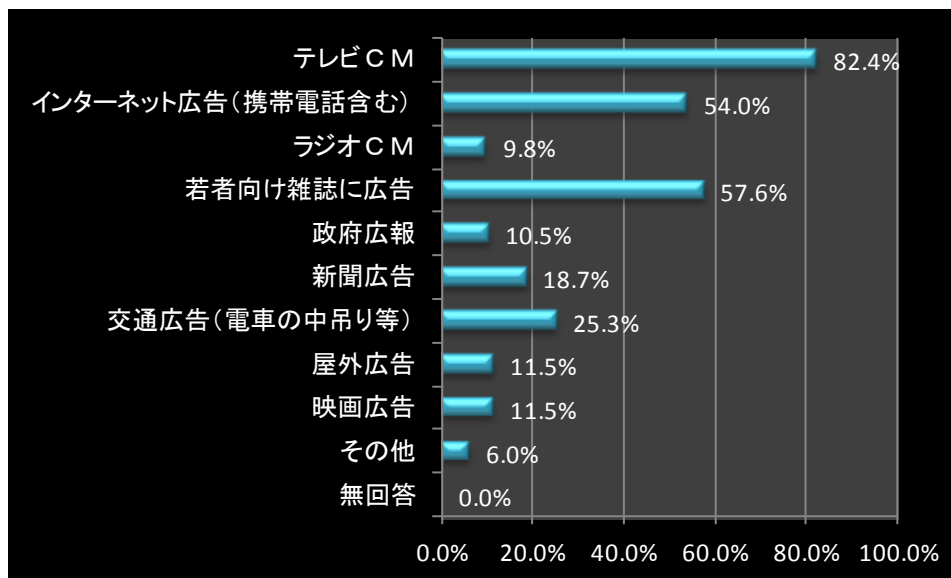


Q1で対象資材を”利用/配布していない”と回答した298校において、Q4の各選択肢1～10に○が付された率を示している。対象資材を利用/配布しなかった理由として約1割を大きく越えて○が付された選択肢は”その他”以外にはないことが解る。“その他”に対応する自由記述理由の約5割は資材の配布・管理上の問題であり、約3割は他の啓発活動との競合である。

1. 厚生労働省の啓発資材(高等学校3年生のみなさんへ・薬物について誤解をしていませんか??)についてお伺いたします

Q5. 薬物乱用防止に向けて、生徒の理解をより深めるためにどのような広報が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. テレビCM | 6. 新聞広告 |
| 2. インターネット広告(携帯電話含む) | 7. 交通広告(電車の中吊り等) |
| 3. ラジオCM | 8. 屋外広告 |
| 4. 若者向け雑誌に広告 | 9. 映画広告 |
| 5. 政府広報 | 10. その他(具体的に:) |



Q5の各選択肢1~10に〇を付けた高等学校の率を示したものである。最多は“テレビCM”(82.4%)であり、“若者向け雑誌に広告”(57.6%)、“インターネット広告(携帯電話含む)”(54.0%)が主なものとして後に続いた。

まとめ

小学校・高等学校を通して、厚生労働省が作成・配布している啓発資材(冊子)はほとんどの学校で児童・生徒への配布などを経て活用されていることが確認され、また、資材の内容に対する評価もほとんどの学校から量的にも質的にも適度との回答が得られた。

調査分析結果は、総じて本啓発活動を肯定的にとらえるものであった。